

経済・金融
フラッシュ米個人所得・消費支出(23年12月)
個人消費(前月比)が+0.7%と前月、市場予想を上回る

経済研究部 主任研究員 窪谷 浩

TEL:03-3512-1824 E-mail: kubotani@nli-research.co.jp

1. 結果の概要: 個人所得(前月比)は市場予想に一致、個人消費は市場予想を上回る

1月26日、米商務省の経済分析局(BEA)は12月の個人所得・消費支出統計を公表した。個人所得(名目値)は前月比+0.3%(前月:+0.4%)と前月を下回った一方、市場予想(Bloomberg集計の中央値、以下同様)の+0.3%に一致した(図表1)。個人消費支出は前月比+0.7%(前月改定値:+0.4%)と+0.2%から上方修正された前月を上回ったほか、市場予想の+0.5%も上回った。価格変動の影響を除いた実質個人消費支出(前月比)は+0.5%(前月改定値:+0.5%)と+0.3%から上方修正された前月に一致、市場予想の+0.3%を上回った(図表5)。貯蓄率¹は3.7%(前月:4.1%)と前月から▲0.4%ポイント低下した。

価格指数は、総合指数が前月比+0.2%(前月:▲0.1%)と前月を上回った一方、市場予想(+0.2%)に一致した。変動の大きい食料品・エネルギーを除いたコア指数は前月比+0.2%(前月:+0.1%)とこちらも前月を上回った一方、市場予想(+0.2%)に一致した(図表6)。前年同月比は総合指数が+2.6%(前月:+2.6%)と前月、市場予想(+2.6%)に一致した。コア指数は+2.9%(前月:+3.2%)と前月、市場予想(+3.0%)を下回った(図表7)。

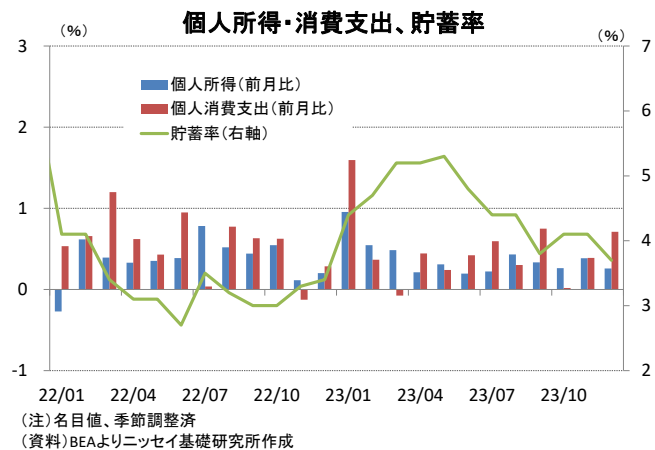
2. 結果の評価: 個人消費は堅調を維持する一方、物価上昇圧力は緩和

個人消費(前月比)の名目ベースは10月に横這いとなった後、11月の+0.4%から12月はさらに+0.7%へ加速するなど、年末商戦が好調であったことを確認した(図表1)。

これに対して、個人所得(前月比)は11月の+0.4%から12月に+0.3%へ低下するなど、可処分所得の伸びが個人消費を下回った結果、貯蓄率は3.7%と22年12月以来の水準に低下した。

一方、FRBが物価指標としているPCE価格指数は総合指数では前月比が前月から上昇したほか、前年同月比が前月並みの伸びとなり、低下基調が一服したものの、物価の基調を示す

(図表1)



¹ 可処分所得に対する貯蓄(可処分所得-個人支出)の比率。

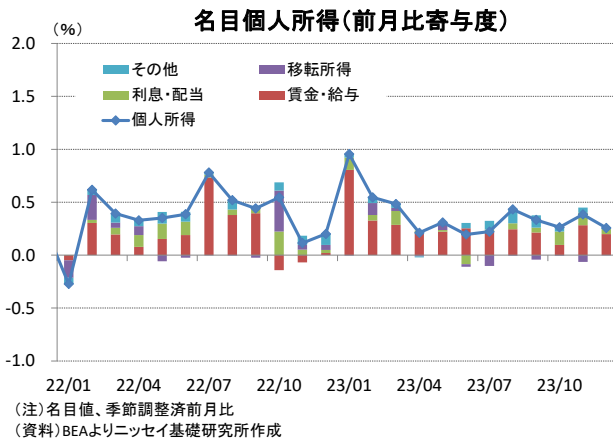
コア指数では前月比では前月から上昇したものの、前年同月比は+2.9%と依然としてFRBの物価目標である2%を大幅に上回っているものの、21年3月以来となる2%台に低下しており、物価上昇圧力が緩和していることを確認した。

3. 所得動向: 可処分所得の伸びが鈍化

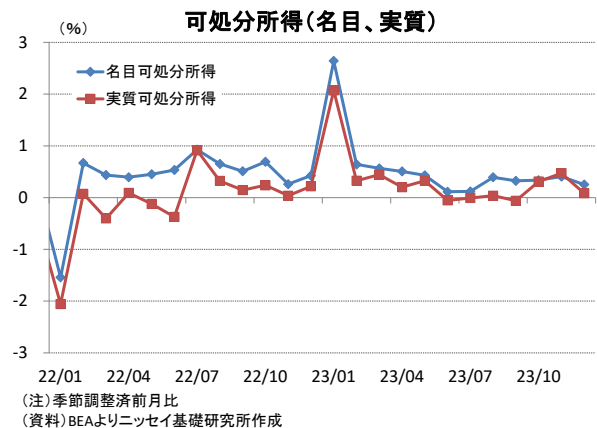
12月の個人所得（前月比）は賃金・給与が+0.4%（前月：+0.6%）と堅調を維持したものの、前月から伸びが鈍化した（図表2）。その他の所得項目では、利息配当収入が+0.3%（前月：+0.8%）と前月から伸びが鈍化したほか、自営業所得が▲0.1%（前月：+0.4%）とマイナスに転じた。一方、移転所得は▲横這い（前月：▲0.4%）と7ヵ月連続でマイナスとなったものの、マイナス幅は縮小した。

個人所得から税負担などを除いた可処分所得（前月比）は、12月の名目が+0.3%（前月：+0.4%）と前月から小幅ながら伸びが鈍化した（図表3）。一方、価格変動の影響を除いた実質ベース（前月比）も+0.1%（前月：+0.5%）と伸びが鈍化した。

(図表 2)



(図表 3)



4. 消費動向: 自動車関連が大幅に増加

12月の名目個人消費（前月比）は、サービス消費が+0.6%（前月：+0.6%）と前月並みの堅調な伸びを維持したほか。財消費が+0.9%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じて個人消費全体を押し上げた（図表4）。

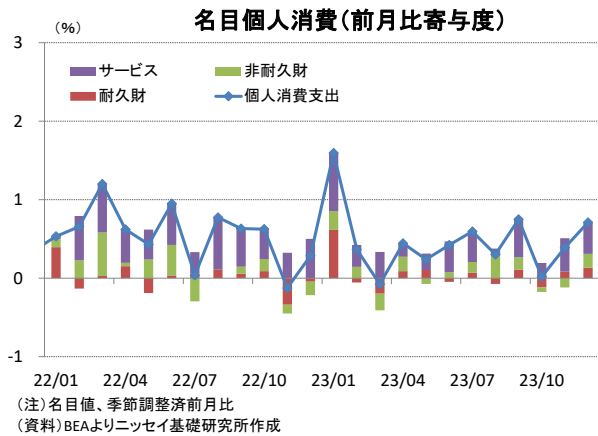
財消費は、耐久財が+1.1%（前月：+0.7%）と前月から伸びが加速したほか、非耐久財が+0.8%（前月：▲0.6%）とこちらは前月からプラスに転じた。

耐久財では、家具・家電が+0.5%（前月：+1.0%）と前月から伸びが鈍化した一方、娯楽財・スポーツカーが+1.0%（前月：+1.0%）と前月並みの堅調な伸びを維持した。さらに、自動車・自動車部品が+1.7%（前月：横這い）と前月から大幅に伸びが加速して耐久財消費全体を押し上げた。

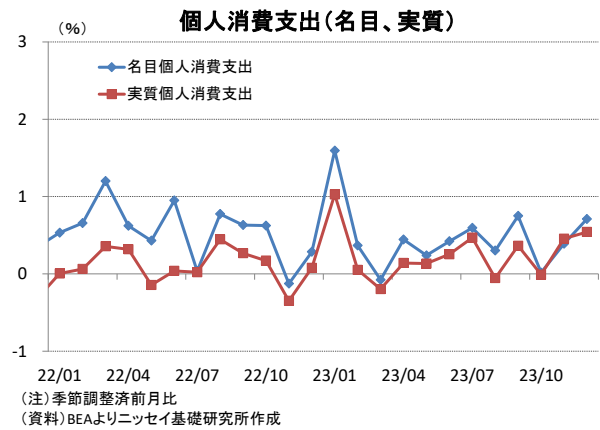
非耐久財では食料・飲料が+0.5%（前月：+0.4%）、衣料・靴が+1.6%（前月：+0.3%）と前月から伸びが加速したほか、ガソリン・エネルギーが+1.9%（前月：▲7.6%）と前月からプラスに転じて非耐久財消費全体を押し上げた。

サービス消費は、住宅・公共料金が+0.3%（前月：+0.7%）、外食・宿泊が横這い（前月：+1.3%）と前月から伸びが鈍化した一方、医療サービスが+0.5%（前月：+0.3%）、輸送サービスが+1.3%（前月：+0.4%）、娯楽サービスが+1.8%（前月：+1.3%）、金融サービスが+1.4%（前月：+0.8%）と前月から伸びが加速するなど、マチマチの結果となった。

(図表 4)



(図表 5)

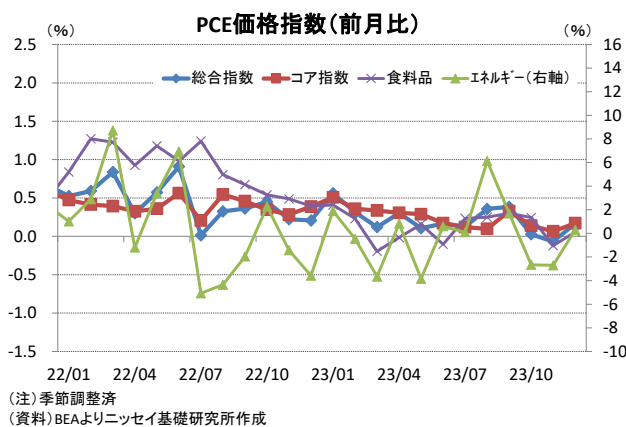


5. 価格指数: エネルギー価格(前月比)が3ヵ月ぶりにプラス転換

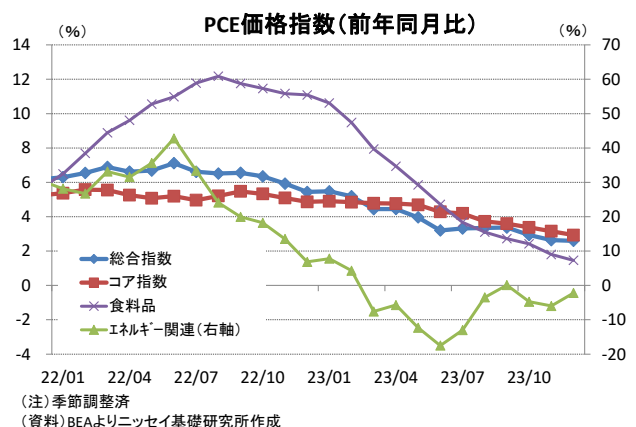
価格指数(前月比)の内訳をみると、エネルギー価格指数が+0.3%（前月：▲2.7%）と小幅ながら3ヵ月ぶりにプラスに転じた(図表6)。一方、食料品価格指数は+0.1%（前月：▲0.1%）と前月からプラスに転じた。

前年同月比は、エネルギー価格指数が▲2.2%（前月：▲6.0%）と前月からマイナス幅は縮小したものの、3ヵ月連続のマイナスとなった(図表7)。食料品価格指数は+1.5%（前月：+1.8%）とこちらは78ヵ月連続のプラスとなったものの、前月から伸びは鈍化した。

(図表 6)



(図表 7)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。